

[First Hit](#)[Previous Doc](#)[Next Doc](#)[Go to Doc#](#)

Generate Collection

Print

L6: Entry 253 of 264

File: JPAB

Sep 9, 1994

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 06251035 A

TITLE: TERMINAL MACHINE FOR ORDER INPUT

Abstract Text (2):

CONSTITUTION: A menu key table is provided where respective menu information belonging to each of menu information groups divided by time zones are stored correspondingly to key numbers specifying respective menu keys with respect to each of group information which discriminate respective menu information groups, and group information of the menu key table is determined based on the time when order input for one customer is started; and when one menu key is inputted, menu information corresponding to the key number of this input menu key belonging to group information determined from the menu key table is extracted as order data and is transmitted to the higher-order controller for order reception processing through a communication means.

Application Date (1):19930223[Previous Doc](#)[Next Doc](#)[Go to Doc#](#)

【特許請求の範囲】

【請求項1】 キーボード上に複数のメニューキー等を備え、このキーボードの入力操作により発生したオーダーデータを通信手段を介して受注処理用の上位コントローラへ送信するオーダー入力用端末機において、

現時刻を計時する時計回路と、時間帯によって区分されるメニュー情報群を識別する群情報別にその群に属する各メニュー情報を前記各メニューキーをそれぞれ特定するキー番号に対応して記憶するメニューキーテーブルと、1客に対するオーダー入力開始されたとき、前記時計回路で計時される現時刻に基づいて群情報を決定する群情報決定手段と、前記各メニューキーのいずれか1つが入力操作されると、前記メニューキーテーブルから前記群情報決定手段により決定された群情報に属する入力メニューキーのキー番号に対応するメニュー情報を抽出してオーダーデータとするオーダーデータ発生手段とを具備したことを特徴とするオーダー入力用端末機。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、昼間と夜間とでメニュー内容が異なるレストラン等で利用されるオーダー入力用端末機に関する。

【0002】

【従来の技術】昨今、レストランのなかには、無線回路を内蔵した携帯型のオーダー入力用端末機をウェイターやウェイトレスと呼ばれる接客担当者それぞれ所持させるとともに、各オーダー入力用端末機と無線によるデータ通信が可能な上位コントローラを設置し、各オーダー入力用端末機で入力された各客のオーダーデータを無線により上位コントローラで収集して、伝票の作成や会計のためのデータ管理等の受注処理を行うようにしたオーダー管理システムを採用しているところがある。

【0003】このシステムで使用されるオーダー入力用端末機は、一般に複数個のメニューキーを備えており、このメニューキーのワンタッチ操作によって客が注文したメニュー情報を簡単に入力できるようになっていた。

【0004】すなわち、端末機の内部メモリ(RAM)に各メニューキーをそれぞれ特定するキー番号に対応してそのキーに割り付けられるメニュー情報を記憶するためのメニューキーテーブルを設け、端末機の制御部(CPU)はメニューキーの1つがキー操作されると上記メニューキーテーブルから入力メニューキーのキー番号に対応するメニュー情報を読み出して入力処理するように構成されていた。

【0005】ここで、上記メニューキーテーブルに対するデータの設定は、一般に上位コントローラからのダウンロードによって行われていた。

【0006】すなわち、上位コントローラには各メニューキーのキー番号に対応してメニューコード、メニュー名称、ステータス(セットメニューにおけるメインメニ

ューかサブメニューかの区別等)、単価等のメニュー情報を予め設定記憶したメニューテーブルが設けられており、各ハンディターミナルのメニューキーテーブル作成モードに入ると、上記メニューテーブルから読出された所定データが各ハンディターミナルにダウンロードされていた。

【0007】ところで、レストランのなかには、昼間は食事を中心としたメニューとし、夜間は酒を中心としたメニューとするという具合に、時間帯によってメニュー内容を変える店があり、このような店でも前述したオーダー管理システムの導入が検討されていた。

【0008】しかしながら、オーダー入力用端末機は携帯型であるためサイズや重量に制限があり、必然的にメニューキーの個数が限られるので、時間帯によってメニュー内容を変える店ではメニューの種類の方がメニューキーの個数よりも多くなる場合が殆どである。このため、全てのメニュー情報を各メニューキーにそれぞれ割り付けることは困難であった。また、たとえ各メニューキーに全メニュー情報を割り付けられたとしても、一部のメニューキーは時間帯により注文できないメニュー情報が割り付けられた無用なキーであり、誤操作のおそれもあった。

【0009】そこで従来は、上位コントローラに時間帯別のメニューテーブルを設け、メニュー内容が切替わる毎に上位コントローラを操作して該当時間帯のメニューテーブルを選択し、そのメニューテーブルのデータを各オーダー入力用端末機にダウンロードするようにして、限られた数のメニューキーに必要なメニュー情報のみを割り付けるようにしていた。

【0010】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、この場合にはメニュー内容が切替わる時間になる毎に上位コントローラでのダウンロードの作業が要求されるので手間がかかっていた。また、ダウンロードの実行中はオーダー入力用端末機を操作できないので、メニューの切替えにある程度の時間が必要となり、店舗運用の効率が低下する問題もあった。

【0011】そこで本発明は、時間帯によりメニュー内容が切替わると上位コントローラからのダウンロード無しに速やかに各メニューキーにその時間帯で注文可能なメニュー情報のみを割り付けるようにして、操作性の向上を図るとともにダウンロードに要する面倒な作業を不要にしてメニュー切替に要する時間短縮を図り、店舗運用の効率化を達成し得るオーダー入力用端末機を提供しようとするものである。

【0012】

【課題を解決するための手段】本発明は、キーボード上に複数のメニューキー等を備え、このキーボードの入力操作により発生したオーダーデータを通信手段を介して受注処理用の上位コントローラへ送信するオーダー入力用端

3

末機において、現時時刻を計時する時計回路と、時間帯によって区分されるメニュー情報群を識別する群情報別にその群に属する各メニュー情報を各メニューキーをそれぞれ特定するキー番号に対応して記憶するメニューキーテーブルと、1客に対するオーダー入力開始されたとき、時計回路で計時される現時時刻に基づいて群情報を決定する群情報決定手段と、各メニューキーのいずれか1つが入力操作されると、メニューキーテーブルから群情報決定手段により決定された群情報に属する入力メニューキーのキー番号に対応するメニュー情報を抽出してオーダーデータとするオーダーデータ発生手段とを備えたものである。

【0013】

【作用】このような構成の本発明であれば、メニューキーテーブルには時間帯によって区分されるメニュー情報群を識別する群情報別にその群に属する各メニュー情報が各メニューキーをそれぞれ特定するキー番号に対応して記憶されており、1客に対するオーダー入力開始されたとき、時計回路で計時される現時時刻に基づいて群情報が決定される。そして、各メニューキーのいずれか1つが入力操作されると、メニューキーテーブルから該当する群情報に属する入力メニューキーのキー番号に対応するメニュー情報が抽出されてオーダーデータとなり、このオーダーデータが通信手段を介して受注処理用の上位コントローラへ送信されて受注処理される。

【0014】従って、時間帯によりメニュー内容が切替わっても上位コントローラから該当するデータをダウンロードする必要はなく、ダウンロードに要する作業が不要となる上、メニュー切替に要する時間が短縮される。また、各メニューキーにそれぞれ割り付けられるメニュー情報は該当時間帯で注文可能なメニューの情報なので、注文不可能なメニュー情報を誤操作により登録してしまうことはなく、操作性は優れている。

【0015】

【実施例】以下、本発明の一実施例を図面を参照しながら説明する。なお、この実施例では、昼間は60種類の食事を中心としたメニューとし、夜間(19時から23時まで)は60種類の酒を中心としたメニューに切り換えるレストランに本発明を適用した場合について述べる。

【0016】本実施例におけるオーダー管理システムは、図1に示すように、無線回路を内蔵した携帯型のオーダー入力用端末機1と、各端末機1から無線送信されたデータの受信及び各端末機1への無線によるデータ送信を行う無線中継器2を備えた受注処理用のファイルコントローラ(上位コントローラ)3とを無線回線で接続するとともに、ファイルコントローラ3にインライン伝送路4を介して伝票プリンタ5、キッチンプリンタ6及びPOS(販売時点情報管理)端末機7を接続して構成される。

4

【0017】各オーダー入力用端末機1は、それぞれウェイターやウェイトレスと呼ばれる接客担当者が所持するもので、その筐体正面に液晶画面上にタッチセンサパネルを配置したタッチセンサパネル部11と、キーボード12と、液晶表示器13が取付けられている。また、筐体の頂部には送受信アンテナ14が設けられている。

【0018】図2に示すように、タッチセンサパネル部11には30個のメニューキー15を5行、6列のマトリクス状に配置したメニューキーマトリクス画面が表示される。またキーボード12には、置数キーK1、クリアキーK2、取消キーK3、伝送キーK4、登録キーK5等の各種ファンクションキーのほか、タッチセンサパネル部11におけるメニューキーマトリクス画面を表画面と裏画面とで交互に切り換えるシフトキーK6が配設される。

【0019】従って、昼間の60種類のメニューを2分割してメニューキーマトリクス画面の表画面と裏画面を作成することでその60種類のメニュー情報を各メニューキー15にそれぞれ割り付け、同様に夜間の60種類のメニューを2分割してメニューキーマトリクス画面の表画面と裏画面を作成することでその60種類のメニュー情報を各メニューキー15にそれぞれ割り付ける。

【0020】前記ファイルコントローラ3は大容量のセンターファイル30を備えており、このセンターテーブル30にメニューテーブル31、オーダー管理テーブル32等の各種データテーブルを形成している。

【0021】メニューテーブル31は、図4に示すようにページ、キー番号、メニューコード、メニュー名称、ステータス及び単価の各項目からなるレコードを当該レコランで取り扱う全メニュー分設定したものである。なお、昼間用メニューと夜間用メニューの両方に同一メニューが存在する場合も別メニューとして設定する。

【0022】因みに、項目「ページ」は前記オーダー入力用端末機1のタッチセンサパネル部11に表示されるメニューキーマトリクス画面をそれぞれ特定する情報であり、ページ「1」は昼間用の表画面、ページ「2」は昼間用の裏画面、ページ「3」は夜間用の表画面、ページ「4」は夜間用の裏画面である。

【0023】また、項目「キー番号」はそのメニューキーマトリクス画面に表示される30個のメニューキー15をそれぞれ特定する情報であり、キー番号「1」は図2に示すメニューキーマトリクス画面の左上のメニューキー(メニュー1)、キー番号「2」はその右隣のメニューキー(メニュー2)、…、キー番号「30」は右下のメニューキー(メニューキー30)である。

【0024】図3は上記オーダー入力用端末機1の要部回路構成を示すブロック図である。オーダー入力用端末機1は制御部本体としてCPU(中央処理装置)16を有し、このCPU16に、バスライン17を介してROM(リード・オンリ・メモリ)18及びRAM(ランダム

・アクセス・メモリ) 19の記憶部の他、前記送受信アンテナ14を介して行われる無線データの送受信を制御する無線回路20、現在の日付及び時刻を計時する時計回路21、前記キーボード12からのキー信号を取り込むキーボードコントローラ22、前記タッチセンサパネル部11におけるタッチセンサパネル11aからのX-Y座標信号を取り込むタッチパネルコントローラ23、前記タッチセンサパネル部11の液晶表示器11bに対するメニューキーマトリクス画面の表示を制御する表示コントローラ24、前記液晶表示器13に対するデータ表示を制御する表示コントローラ25等を接続している。

【0025】前記RAM19には、図5に示すように、ページ、キー番号、メニューコード、メニュー名称及びステータスの各項目からなるレコードを記憶するメニューキーテーブル41、夜間用メニューの時間帯(切換開始時刻〜切換終了時刻)を記憶する切換時間帯エリア42、夜間用メニューの時間帯のとき“1”にセットされる時間帯フラグTFとシフトキーK6のキー操作により裏画面が表示されているとき“1”にセットされるシフトキーフラグSFを記憶するフラグエリア43、1客分のオーダーデータを記憶するオーダーデータエリア44等が形成されている。

【0026】前記メニューキーテーブル41は、前記ファイルコントローラ3からの無線によるダウンロードによって作成される。すなわち、ファイルコントローラ3は各オーダー入力用端末機1に対するメニューキーテーブル41の作成モードが選択されると、前記メニューテーブル31に予め設定されているページ、キー番号、メニューコード、メニュー名称及びステータスの各項目データを順次読出し、無線中継器2を介して各オーダー入力用端末機1へ無線送信する。この無線データを受信した各オーダー入力用端末機1のCPU16はその受信データをRAM19に順次格納してメニューキーテーブル41を作成する。

【0027】ここで、メニューキーテーブル41のページ“1”に属する各メニュー情報とページ“2”に属する各メニュー情報は昼間用メニュー60種類の情報であり、ページ“3”に属する各メニュー情報とページ“4”に属する各メニュー情報は夜間用メニュー60種類の情報である。そして、各ページに属する各メニュー情報はそれぞれ前記メニューキー15を特定するキー番号に対応して記憶される。

【0028】ここに、各オーダー入力用端末機1は、昼間用と夜間用の時間帯によって区分されるメニュー情報群を識別する群情報(ページ)別にその群に属する各メニュー情報を前記各メニューキー15をそれぞれ特定するキー番号に対応して記憶するメニューテーブル41を備える。

【0029】また、前記切換時間帯エリア42も前記フ

ァイルコントローラ3からの無線によるダウンロードによって作成される。なお、RAM19は端末機内蔵のバッテリーから常時電源が供給されており、電源スイッチのオフときにも記憶データは安定に保持される。

【0030】しかして、各オーダー入力用端末機1のCPU16は、RAM19にメニューキーテーブル41及び切換時間帯テーブル42がファイルコントローラ3からのダウンロードによって作成された状態で電源スイッチがオン操作されると、ROM18に格納された制御プログラムにより図6の流れ図で示す処理を実行するように構成されている。

【0031】すなわち、電源スイッチがオン操作されると、先ずフラグエリア43のシフトキーフラグSFを“0”にリセットする。次に、時計回路21から現在の時刻を讀出して液晶表示器13に時刻表示させる。次に、現在の時刻が切換時間帯エリア42に設定されている時間帯内か否かを調べる。

【0032】そして、現在時刻が設定時間帯以外の場合には昼間用メニューの時間帯なので、フラグエリア43の時間帯フラグTFを“0”にリセットするとともに、メニューキーテーブル31のページ“1”に属する全てのメニュー情報のキー番号とメニュー名称とから昼間用メニューの表画面としてのメニューキーマトリクス画面を作成して、タッチセンサパネル部11の液晶表示器11bに表示させる。

【0033】これに対し、現在時刻が設定時間帯内の場合には夜間用メニューの時間帯なので、フラグエリア43の時間帯フラグTFを“1”にセットするとともに、メニューキーテーブル31のページ“3”に属する全てのメニュー情報のキー番号とメニュー名称とから夜間用メニューの表画面としてのメニューキーマトリクス画面を作成して、タッチセンサパネル部11の液晶表示器11bに表示させる。

【0034】ここにCPU16は、1客に対するオーダー入力開始されたとき、時計回路21で計時される現時刻に基づいて群情報を決定する群情報決定手段を構成する。

【0035】しかる後、キーボード12またはタッチセンサパネル部11のメニューキー15のキー入力待機し、キー入力があると該当するキー入力処理を実行する。

【0036】ここで、CPU16は、キーボード12からのキー信号によりシフトキーK6のキー入力を検知すると、図7に示すように、フラグエリア43の時間帯フラグTF及びシフトキーフラグSFを調べる。そして、時間帯フラグTFが“0”でかつシフトキーフラグSFも“0”の場合にはタッチセンサパネル部11にメニューマトリクス画面として昼間用メニューの表画面が表示されているので、シフトキーフラグSFを“1”にセットするとともに、メニューキーテーブル31のページ

“2”に属する全てのメニュー情報のキー番号とメニュー名称とから昼間用メニューの裏画面としてのメニューキーマトリクス画面を作成して、タッチセンサパネル部11の表示画面を切り換える。

【0037】これに対し、時間帯フラグTFが“0”であるがシフトキーフラグSFが“1”の場合にはメニューマトリクス画面として昼間用メニューの裏画面が表示されているので、シフトキーフラグSFを“0”にリセットするとともに、前述したように昼間用メニューの表画面としてのメニューキーマトリクス画面を作成して、

タッチセンサパネル部11の表示画面を切り換える。
【0038】また、時間帯フラグTFが“1”であるがシフトキーフラグSFが“0”の場合にはメニューマトリクス画面として夜間用メニューの表画面が表示されているので、シフトキーフラグSFを“1”にセットするとともに、メニューキーテーブル31のページ“4”に属する全てのメニュー情報のキー番号とメニュー名称とから夜間用メニューの裏画面としてのメニューキーマトリクス画面を作成して、タッチセンサパネル部11の表示画面を切り換える。

【0039】これに対し、時間帯フラグTFが“1”でかつシフトキーフラグSFも“1”の場合にはメニューマトリクス画面として夜間用メニューの裏画面が表示されているので、シフトキーフラグSFを“0”にリセットするとともに、前述したように夜間用メニューの表画面としてのメニューキーマトリクス画面を作成して、タッチセンサパネル部11の表示画面を切り換える。

【0040】またCPU16は、キー入力待機状態において、タッチセンサパネル部11におけるタッチセンサパネル11aからのX-Y座標信号により、メニューキーマトリクス画面の当該X-Y座標に位置するメニューキー15のキー入力を検知すると、図8に示すようにフラグエリア43の時間帯フラグTF及びシフトキーフラグSFを調べる。そして、時間帯フラグTFが“0”でかつシフトキーフラグSFも“0”の場合には昼間用メニューの表画面の該当位置に表示されたメニューキーが

入力操作されたので、メニューキーテーブル41のページ“1”に属する各メニュー情報の中で該当位置のメニューキーのキー番号に対応するメニュー情報を抽出し、メニュー名称を液晶表示器12を表示させるとともに、ページ“1”及びキー番号をオーダーデータとしてオーダーデータエリア44に登録する。
【0041】これに対し、時間帯フラグTFが“0”であるがシフトキーフラグSFが“1”の場合には昼間用メニューの裏画面の該当位置に表示されたメニューキーが

入力操作されたので、メニューキーテーブル41のページ“3”に属する各メニュー情報の中で該当位置のメニューキーのキー番号に対応するメニュー情報を抽出し、メニュー名称を液晶表示器12を表示させるとともに、ページ“3”及びキー番号をオーダーデータとしてオーダーデータエリア44に登録する。

【0042】また、時間帯フラグTFが“1”であるがシフトキーフラグSFが“0”の場合には夜間用メニューの表画面の該当位置に表示されたメニューキーが入力操作されたので、メニューキーテーブル41のページ“3”に属する各メニュー情報の中で該当位置のメニューキーのキー番号に対応するメニュー情報を抽出し、メニュー名称を液晶表示器12を表示させるとともに、ページ“3”及びキー番号をオーダーデータとしてオーダーデータエリア44に登録する。

【0043】これに対し、時間帯フラグTFが“1”でかつシフトキーフラグSFも“1”の場合には夜間用メニューの裏画面の該当位置に表示されたメニューキーが入力操作されたので、メニューキーテーブル41のページ“4”に属する各メニュー情報の中で該当位置のメニューキーのキー番号に対応するメニュー情報を抽出し、メニュー名称を液晶表示器12を表示させるとともに、ページ“4”及びキー番号をオーダーデータとしてオーダーデータエリア44に登録する。

【0044】ここに、CPU16は、各メニューキー15のいずれか1つが入力操作されると、メニューキーテーブル41から群情報決定手段により決定された群情報(ページ)に属する入力メニューキーのキー番号に対応するメニュー情報を抽出してオーダーデータとするオーダーデータ発生手段を構成する。

【0045】またCPU11は、キー入力待機状態において、キーボード12からのキー信号により伝送キーK4のキー入力を検知すると、図9に示すように、オーダーデータエリア44に1客分のオーダーデータが全て登録されているか否かを判断する。ここで、1客分のオーダーデータとはメニューキー15のキー入力によって発生した注文メニュー情報のページ及びキー番号は勿論のこと、置数キーK1と登録キーK5のキー操作によって入力された卓番号、接客担当者コード、人数等も含む。

【0046】そして、オーダーデータの登録済みであることを確認した場合には、そのオーダーデータエリア44の内容に基づいてオーダーデータ電文を作成する。そして、無線回路20を制御して送受信アンテナ14から当該電文を無線送信したならば、オーダー入力用端末機1の電源は自動的にオフされる。

【0047】こうして無線送信されたオーダーデータ電文は無線中継器2にて受信されてファイルコントローラ3に収集される。ファイルコントローラ3は、収集したオーダーデータをもとにメニューテーブル31を参照して注文伝票及び調理指示票の印字データを作成して、伝票プリンタ5及びキッチンプリンタ6に送出する。これにより、伝票プリンタ5からは注文伝票が印字発行されるので、接客担当者はその注文伝票に従い配膳する。また、キッチンプリンタ6からは調理指示票が印字発行されるので、厨房内の調理担当者はその調理指示票に従い調理

する。

【0048】また、ファイルコントローラ3は、収集したオーダーデータをオーダー管理ファイル32に順次蓄積する。このオーダー管理ファイル32に蓄積されたオーダーデータはPOS端末7からの呼出指令に反応して呼び出されて、POS端末7での会計業務に供される。

【0049】なお、ファイルコントローラ3、伝票プリンタ5、キッチンプリンタ6及びPOS端末7の動作は従来周知のこの種オーダー管理システムと同様なので、ここでの詳しい説明は省略する。

【0050】このように構成された本実施例においては、ファイルコントローラ3からのダウンロードによって各オーダー入力用端末機1のRAM19にメニューキーテーブル41及び切替時間帯エリア42が作成された状態で、そのオーダー入力用端末機1の電源スイッチをオン操作すると、現時刻が切替時間帯エリア42に設定されている時間帯以外の場合、つまり昼間用メニューの時間帯の場合には、タッチセンサパネル部11に昼間用メニューのメニュー情報が割り付けられたメニューキーの一部が表示される。また、昼間用メニューのメニュー情報が割り付けられた残りのメニューキーは、シフトキーK6をキー操作することにより画面表示される。

【0051】これに対し、現時刻が切替時間帯エリア42に設定されている時間帯内の場合、つまり夜間用メニューの時間帯の場合には、タッチセンサパネル部11に夜間用メニューのメニュー情報が割り付けられたメニューキーの一部が表示される。また、夜間用メニューのメニュー情報が割り付けられた残りのメニューキーは、シフトキーK6をキー操作することにより画面表示される。

【0052】従って、各オーダー入力用端末機15のメニューキー15を操作して受注登録できるメニュー商品は、昼間用メニューの時間帯ではその昼間用メニューに属する60種類のメニュー商品、すなわちページ“1”及び“2”のメニュー情報の商品に限られ、夜間用メニューの時間帯ではその夜間用メニューに属する60種類のメニュー商品、すなわちページ“3”及び“4”のメニュー情報の商品に限られる。従って、メニューキー15の誤操作により夜間用メニューの時間帯に昼間用メニューの商品を登録してしまったり、逆に昼間用メニューの時間帯に夜間用メニューの商品を登録してしまったりすることはなく、操作性が優れている。

【0053】そして、ファイルコントローラ3から各オーダー入力用端末機1へのメニューキーテーブル作成のためのダウンロードは1度だけでよく、その後は時間帯によってメニューが切替わってもダウンロードの必要がないので、ダウンロードに要する作業が不要となる上、メニュー切替に要する時間が短縮される。その結果、所定の時刻になると速やかにメニューを切替えられるようになるので、店舗運用の効率化を図り得る。

【0054】なお、前記実施例では切替時間帯エリア42に設定された時間帯になると自動的に昼間用メニューから夜間用メニューに切替わるようにしたが、ファイルコントローラ3からのコマンド等によって任意に切替わるようにしてもよい。こうすることにより、例えば昼間用メニューから夜間用メニューへの切替時刻がずれても容易に対応できる利点がある。

【0055】また、前記実施例ではメニューキー15をタッチセンサパネル部11に設けたが、メニューの切替が行われる毎に各メニューキー15に割り付けられるメニュー情報を示すキーシートを入れ替えることによって、各メニューキー15をキーボード12に設けることも可能である。

【0056】この他、本発明の要旨を逸脱しない範囲で種々変形実施可能であるのは勿論である。

【0057】

【発明の効果】以上詳述したように本発明によれば、時間帯によって区分されるメニュー情報群を識別する群情報別にその群に属する各メニュー情報を各メニューキーをそれぞれ特定するキー番号に対応して記憶するメニューキーテーブルを設け、1客に対するオーダー入力開始された時刻に基づいてメニューキーテーブルの群情報を決定し、各メニューキーのいずれか1つが入力操作されると、メニューキーテーブルから決定された群情報に属する入力メニューキーのキー番号に対応するメニュー情報を抽出してオーダーデータとし、通信手段を介して受注処理用の上位コントローラへ送信するようにしたので、時間帯によりメニュー内容が切替わると上位コントローラからのダウンロード無しに速やかに各メニューキーにその時間帯で注文可能なメニュー情報のみを割り付けることができ、操作性を向上できるとともにダウンロードに要する面倒な作業を不要にし得、メニュー切替に要する時間を短縮でき、店舗運用の効率化を達成し得るオーダー入力用端末機を提供できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例であるオーダー管理システムの全体図。

【図2】同実施例におけるオーダー入力用端末機のタッチセンサパネル部及びキーボードの詳細図。

【図3】同実施例におけるオーダー入力用端末機の要部ブロック図。

【図4】同実施例におけるファイルコントローラに設けられるメニューテーブルの詳細図。

【図5】同実施例におけるオーダー入力用端末機のRAMに形成される主要エリアを図。

【図6】同実施例におけるオーダー入力用端末機のCPUの電源オン処理を示す流れ図。

【図7】同実施例におけるオーダー入力用端末機のCPUのシフトキー入力処理を示す流れ図。

【図8】同実施例におけるオーダー入力用端末機のCPU

11

12

のメニューキー入力処理を示す流れ図。

【図9】同実施例におけるオーダー入力用端末機のCPUの伝送キー入力処理を示す流れ図。

【符号の説明】

1…オーダー入力用端末機、

3…ファイルコントローラ（上位コントローラ）、

11…タッチセンサパネル部、

15…メニューキー、

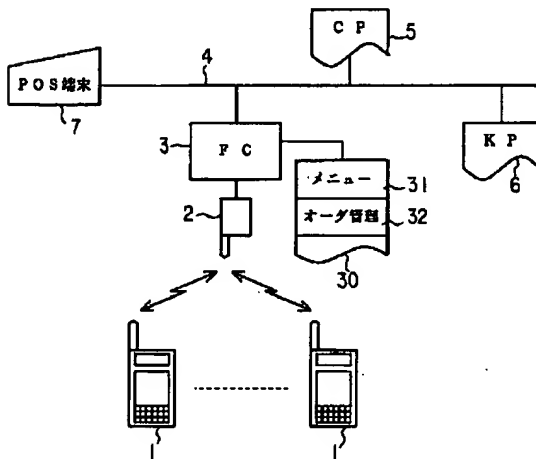
16…CPU（群情報決定手段、オーダーデータ発生手段）、

31…メニューテーブル、

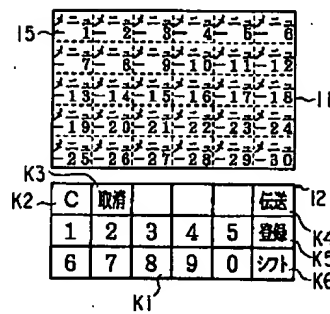
41…メニューキーテーブル、

42…切換時間帯エリア。

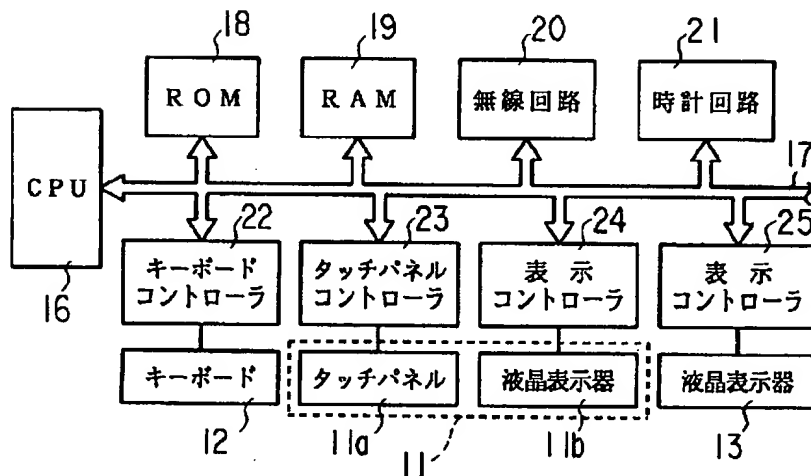
【図1】



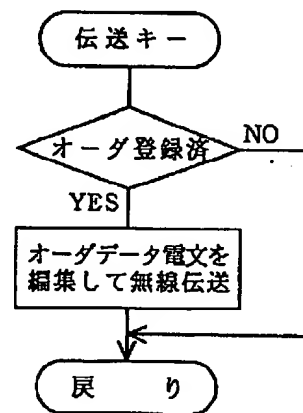
【図2】



【図3】



【図9】

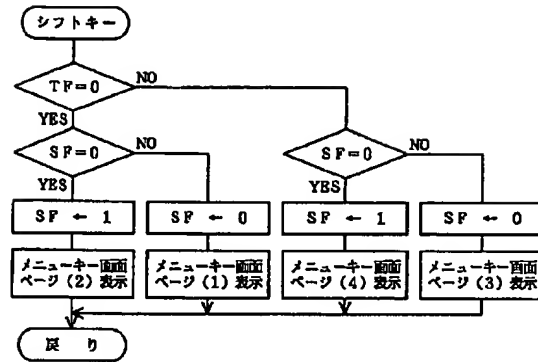


【図4】

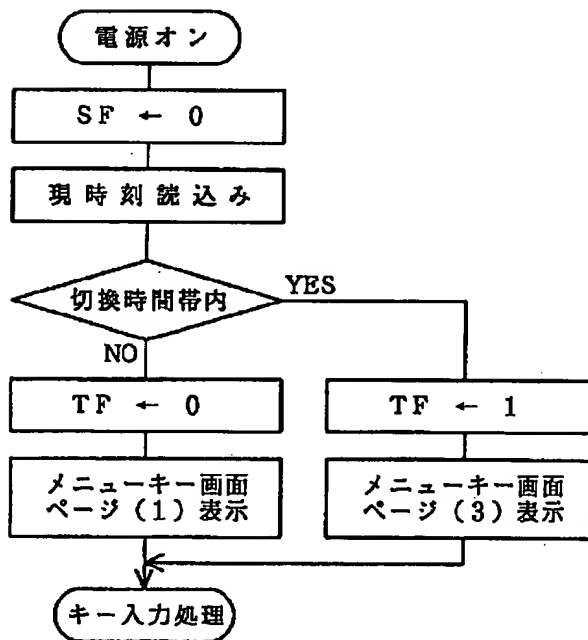
ページ	キー番号	メニューコード	メニュー名称	ステータス	単価
1	01	0101	ラーメン		500
1	02	0102	ミソラーメン		600
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
1	30	0130	ギョーザ		400
2	01	0131	ヤサイイタメ		550
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
2	30	0160	ライス		150
3	01	1111	ビール		500
3	02	1112	ウイスキーS		400
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
3	30	1138	ニホンケ2ゴウ		800
4	01	1211	ポテト		200
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
4	30	0160	ライス		180

31

【図7】



【図6】



【図5】

ページ	キー番号	メニューコード	メニュー名称	ステータス
1	01	0101	ラーメン	
1	02	0102	ミソラーメン	
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
1	30	0130	ギョーザ	
2	01	0131	ヤサイイタメ	
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
2	30	0160	ライス	
3	01	1111	ビール	
3	02	1112	ウイスキーS	
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
3	30	1133	ニホンシュ2ゴウ	
4	01	1211	ポテト	
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
4	30	0160	ライス	

41

42	切換開始時刻	切換終了時刻
	19:00	23:00

時間帯フラグ TF
シフトキーフラグ SF

43

オーダーデータエリア

44

【図8】

